

令和4年12月5日

対馬市議会議長 初村久藏様

厚生常任委員会

委員長 小田昭人

委員会調査報告書

会議規則第106条の規定により、委員派遣を要求し承認されていましたが本委員会の調査について、その概要を同規則第110条の規定により報告します。

[調査概要]

1. 期 日 令和4年10月31日(月)～11月2日(水)
2. 調査先 医療法人清明会 障害福祉サービス事業所P I C F A
(佐賀県三養基郡基山町宮浦)
日田市役所(大分県日田市田島)
3. 調査事項 福祉行政に関すること
・ 障害者就労支援について
・ 認定こども園について
4. 出席委員 小田委員長、坂本副委員長、神宮委員、船越委員、脇本委員
5. 説明者 P I C F A : 原田 啓之 施設長
日 田 市 : 福祉保険部こども未来課
信岡 謙介 課長
鹿毛 義昭 主幹
安養寺 智也 主任

[調査内容]

(調査先①) 障害福祉サービス事業所 P I C F A

令和4年10月31日(月) 午後2時00分～

P I C F Aのミーティングルームにおいて、原田啓之施設長から障害者就労支援について説明を受け、施設の利用者の作業の様子を見学しました。

原田施設長は、高校時代にテニスの全国大会で優勝という実績を残していましたが、その道に進むことなく、知的障害を持つ兄をきっかけに福祉の世界に入りました。

福岡市の障害福祉サービス事業所で約15年間勤務し、平成29年に日本で初めて病院内に障害福祉サービス事業所を設立しました。世界でも珍しい施設の形態であり、海外の行政からも視察が来ているとのことでした。

施設の名称である P I C F A (ピクファ) は P I C T U R E (絵画) と W E L F A R E (福祉) からとった造語であり、施設では利用者が絵画やデザインなどのアートを仕事にしています。

P I C F Aは就労継続支援B型事業所であり、利用者の活動で得た収入が工賃として支払われます。就労継続支援B型事業所の全国平均工賃月額額は約1万8千円ですが、P I C F Aは約8万円もあり、利用者の中には100万円を超える方もいるとのことでした。

施設は、県内外から絵を描くことが好きな20名の方が利用していますが、絵画の指導は一切することはありません。利用者は好きな絵を好きなように楽しそうに描いており、作品はどれも個性的で驚くものばかりでした。

福祉の世界に入ったばかりの頃は、大企業の社長室にアポイントメント無しで営業することを繰り返していましたが、今では営業をしなくても様々な企業から仕事の依頼が入って来るそうです。自治体の名刺のデザイン、コンビニエンスストアのコーヒーカップのデザイン、大企業のロゴマークなど依頼内容は様々です。

利用者ができることを仕事にして生き甲斐を感じ、それをスタッフが全力で支える P I C F Aの今後の活動に注目したいと思います。

(調査先②) 日田市役所 令和4年11月1日(火) 午後3時00分～

庁舎3階議会棟議長応接室において、日田市議会事務局 佐々木局長から歓迎の挨拶をいただき、その後、担当課から説明を受けました。

日田市には、教育・保育施設が33施設あり、そのうち公立の施設は7施設で、市直営だけではなく民間委託や指定管理による運営も行われています。

33施設のうち、約7割が認定こども園で、幼保連携型11園、幼稚園型4園、そして保育所型8園の計23園となっています。

公立施設7施設(全体の約2割)のうち、保育所型認定こども園が5施設であり、公立園は主に保育所型認定こども園となっています。

認定こども園への移行については、平成27年度の子ども・子育て支援新制度の本格施行にあわせ、当時の公立保育園8園を日田市立認定こども園に移行し、平成29年度以降も公立園の廃止・統合・民間移管を進め、また、令和5年3月以降に民間移管1園、2園の統合を予定しており、市立の認定こども園を4施設にする見込みであるとの説明を受けました。

なお、民間移管については、プロポーザルによる公募を行った結果、指定管理による運営を行っていた法人1者から応募があり、スムーズに移行ができたとのことでした。

保育園型認定こども園にした理由については、幼稚園と保育所の機能・特長をあわせ持つ認定こども園の拡充を図るため、また、日田市において、民間施設での認定こども園への移行希望が多く、市全体で歩調を合わせたものであるとの説明を受けました。

こども園にしたことによるメリットについては、

- ①幼稚園、保育園の機能・特長をあわせ持つためサービスの幅が広がる。
- ②保護者の就労状況により利用する施設が限られることがない。
- ③0～2歳児の預かりが増加し、両親の共働きが容易になった。
- ④スタッフが保育教諭として働くことから、質の向上が図られた。

といったことがあげられ、デメリットについては、

- ①現場で保育、幼児教育の双方が求められ、スタッフの業務における難易度があがった。
- ②認定こども園に移行することにより、入園児の確保を危惧し、民間施設か

らの反発を受けた。

との説明を受けました。

今回の調査では、対馬市における障害者就労支援、また今後、整備される認定こども園について大変参考になるものでした。今後は、今回の視察における取組やその過程について、本市の福祉行政及び委員会審査の中に反映させていきたいと思っております。

以上、厚生常任委員会の調査報告といたします。

①PICFA



②PICFA



③日田市役所

